

令和6年12月25日 発表

中小企業月次景況調査結果

令和6年11月分

～令和6年11月 データから見た業界の動き～

令和6年12月25日 発表

製造業はすべてのD.I値が上昇
「給料アップ+休日確保」の両立に苦慮する事業者が多数



山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215

FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

令和6年12月25日 発表

製造業はすべてのD.I値が上昇 「給料アップ+休日確保」の両立に苦慮する事業者が多数

■ 概 況

11月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高 +6ポイント（前年同月比 6ポイント↓）

収益状況 ▲6ポイント（前年同月比 2ポイント↑）

景況感 ▲2ポイント（前年同月比 14ポイント↑）となり収益状況・景況感で前年同月を上回った。

業種別で、製造業では…

売上高 +10ポイント（前年同月比 15ポイント↑）

収益状況 +5ポイント（前年同月比 15ポイント↑）

景況感 ▲10ポイント（前年同月比 15ポイント↑）となった。

季節商品〔ヌーボー（酒類製造業）、クリスマスケーキ（菓子製造業）など〕の需要増加の好影響を受けた 飲食料品製造業が数値を押し上げた（全てのD.I値が+15ポイント）。

その一方で「材料によっては仕入価格が前年同月比で30～40%上昇しており、仕入れ先の変更・代替品への切替も視野に入れている（電気機械器具製造業）」、「我々同様に取引先の経営状況も厳しいため、十分な値上げは新年度以降となる見込み（骨材・石工等品製造業）」など多くの事業者が適切な収益確保のため奔走しており、「厳しい経営状況が続いており、先の見通しも全くつかない（木材・木製品製造業）」と、先行きの見方についても慎重なコメントも多く、数値の回復が製造業全体の傾向とは言えない。

一方、非製造業では…

売上高 +3ポイント（前年同月比 20ポイント↓）

収益状況 ▲13ポイント（前年同月比 6ポイント↓）

景況感 +3ポイント（前年同月比 13ポイント↑）となった。

「地金価格の変動が激しく、販売価格への転嫁が進まない（ジュエリー製品卸売業）」、「組合員各社で荷主への運賃交渉を行っているが効果が薄い（道路貨物運送業）」など、非製造業全体で価格転嫁の進展に陰が見える。（収益状況▲6ポイント）

また「観光業界全体がコロナ前の状況に戻りつつあると感じる（道路旅客運送業）」、「エコキュートなどの省エネ商品は補助金の影響もあり前年を上回る売れ行きで推移している（電気機械器具小売業）」など、冬休み・年末商戦に向けて消費活動の活発化を期待する声があり景況感D.I値は上昇（+13ポイント）したが、「ガソリン等燃料油の卸売価格に対する補助金の段階的縮小が閣議決定され、12月中旬と1月中旬にそれぞれ5円/ℓほど小売価格の上昇が予測される（ガソリンスタンド）」と燃料油の消費抑制を危惧する声もあった。

「“給料アップ”を目的として他企業に転職する従業員も増えている（家具製造業）」、「若い世代は“給料の高さ+休日の多さ”を求めるが、経営状況が改善しない限り賃上げ・休日確保ともに困難（型枠大工工事業）」など、製造業・非製造業問わず人材確保・定着が課題であり、賃上げの原資となる収益確保にも苦慮している。

「当組合では“技術者の育成”を今年度の重点施策の一つとしており、国家資格などの取得をサポートするため研修会を実施した（管工事業）」と専門的技術や資格取得を必要とする業種では人材育成の取組にも力を入れている。

また、「他産地の縮小により当産地に発注が回ってきているが、外注先の賃織屋の減少により生産量の確保に苦慮している（織物業）」、「県外の取引先事業者の倒産が増えており、今後の動向を注視している（貴金属・宝石製品製造業）」を例に、取引先などの廃業・倒産の増加の影響を受けている事業者の声も多く聞かれた。

中央会では、厳しい経営環境を乗り越えるため、専門家派遣や講習会等を活用した支援を強化しています。お気軽にご相談ください。

業界からのコメント

● 製造業

食料品 (水産物加工業)	季節商品の前倒し展開の影響によって、前年同月と比べ売上は93.9%となった。11月末の累計では102%であり、原材料費の上昇によって増収減益傾向である。
食料品 (洋菓子製造業)	前年同月と比べ売上は104.9%となり、クリスマスケーキなど季節商品の注文も好調である。原材料（特に卵やチョコレート、イチゴなど）の価格高騰によって収益状況が悪化している。
食料品 (酒類製造業)	新酒（ヌーボー）効果によって前年同月と比べて売上は2%増加した。
繊維・同製品 (織物)	他産地の縮小により当産地に発注が回ってきているが、外注先の賃織屋の減少により生産量の確保に苦慮している。
木材・木製品製造	前年同月と比べ売上は▲45%、仕事量は▲56%となった。厳しい経営状況が続いており、先の見通しも全くつかない。
家具製造	前年同月と比べ売上は10%増加・収益状況は25%好転したが、賃上の上原資を十分に確保できておらず、「給料アップ」を目的として他企業に転職する従業員も増えている。
窯業・土石 (砂利)	地域によって組合員の売上・収益状況にばらつきがある。骨材販売価格の値上げ交渉を続けており徐々に転嫁できている（前年同月と比べ販売価格は10%上昇）が、我々同様に取引先の経営状況も厳しいため十分な値上げは新年度以降となる見込みである。
窯業・土石 (山碎石)	組合員各社は年度当初から価格改定を需要家に要望しているが、未だ満足のいく回答を得られていない。個社の力には限界があるため、組合の力を活用した交渉手法を模索している。
一般機器 (業務用機械器具製造業)	半導体関連、設備・自動車関連の受注量の減少が続いており、前年同月と比べ売上は▲27%、収益状況は▲25%となった。 先行きも不透明であり、日米それぞれの政策が業界に与える影響についても不安視している。
電気機器 (電気機械部品加工業)	前年同月と比べ収益状況は5%好転したが、材料によっては仕入価格が30~40%上昇（前年同月比）しており、今後の動向を注視するとともに仕入れ先の変更・代替品への切替も視野に入れている。
電気機器 (電気機械部品加工業)	前年同月と比べ売上は▲15%、収益状況は▲10%となった。半導体関連について、取引先(一次下請け)は安定して受注量を確保できているが、二次・三次下請けの受注量には波がある。医療機器関連はリピーター品の受注量が徐々に増えている。 本格的な景気回復にはもう少し時間がかかる予測である。
宝飾 (貴金属)	県外の取引先事業者の倒産が増えており、今後の動向を注視している。

● 非製造業

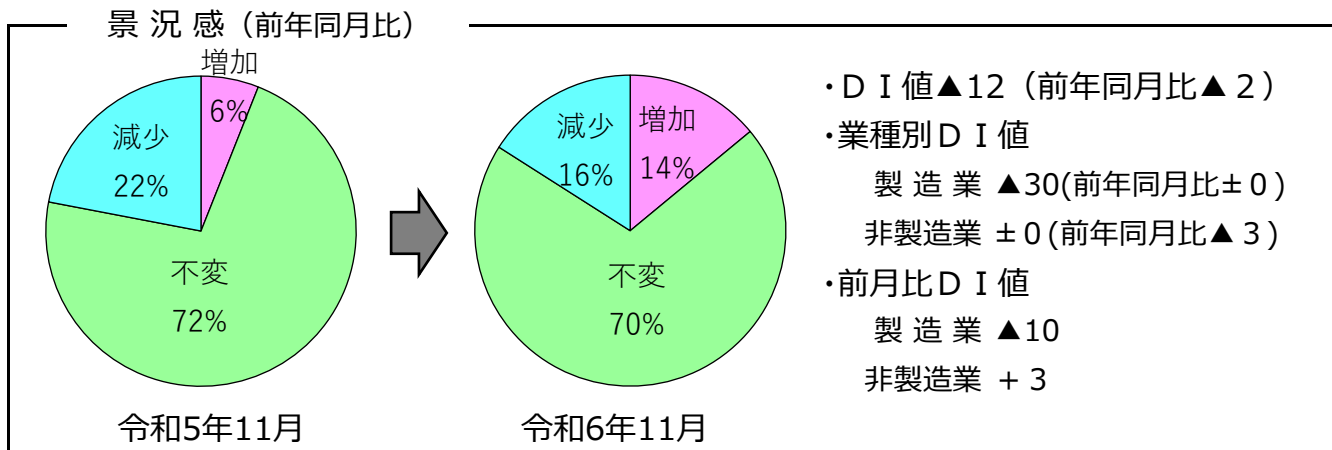
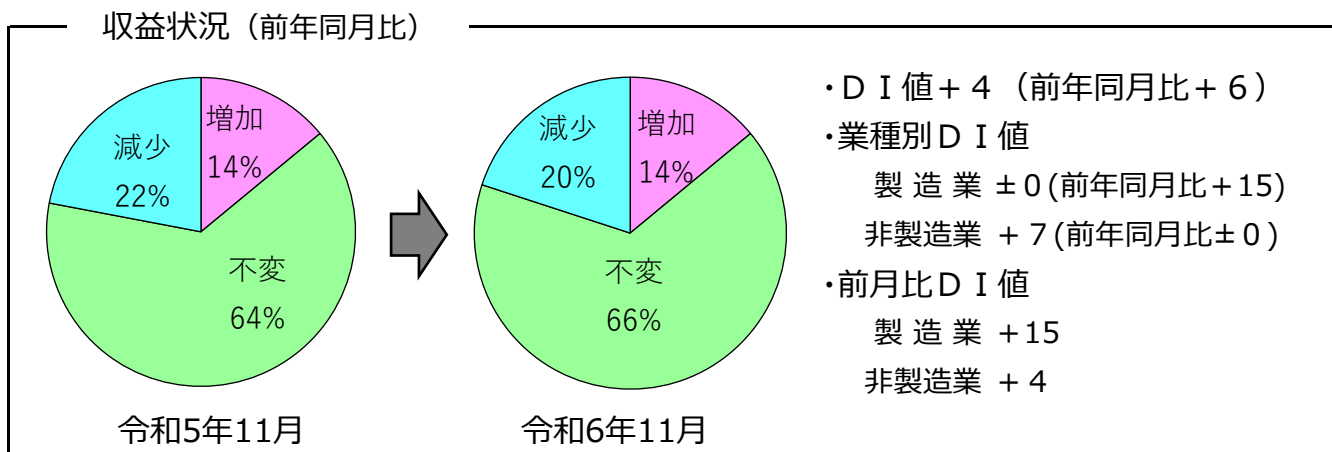
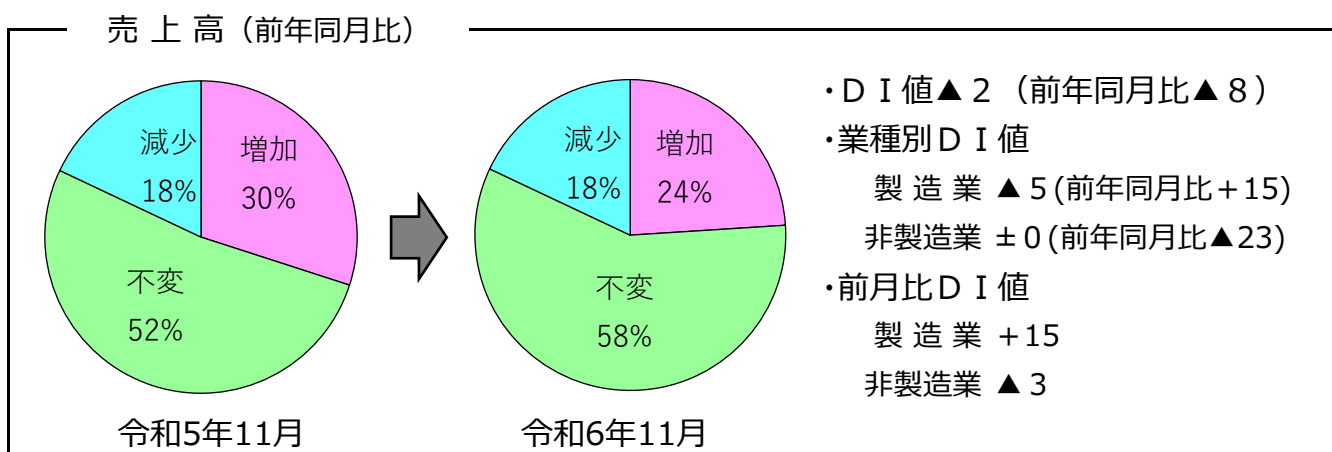
卸売 (ジュエリー)	地金価格の変動が激しく価格転嫁が進まないことに加えて、注文ロット数の減少、海外展示会に係る費用増加、中国バイヤーの購買意欲低下によって前年同月と比べ売上は▲15%、収益状況は▲20%となった。年末商戦を目前に控えている中、経営環境は厳しさを増すばかりである。
小売 (青果)	野菜の仕入れ価格上昇に伴う小売価格の値上げ（前年同月と比べ約20%上昇）によって、売上は2%増加したが収益状況は▲10%となった。物価高騰による消費者の購買意欲低迷を感じている。
小売 (水産物)	お祭り用の景品など一部商品について特需があった。
小売 (電気機械器具小売業)	年末商戦を目前に控える中、エアコンやテレビは前年並みであるが、エコキュートなどの省エネ商品は補助金の影響もあり前年を上回る売れ行きで推移している。

小売 (ガソリン)	燃料油価格激変緩和対策事業について、ガソリン等燃料油の卸売価格に対する補助率の段階的縮小が閣議決定されたため、12月中旬と1月中旬にそれぞれ5円/ℓほど小売価格の上昇が予測される。ガソリンスタンド業界では顧客への周知準備（ポスターなど）を進めている。
宿泊業	秋の観光シーズンによって特に休前日の稼働状況がよく、多くの施設が満室となった。冬休みに向けて観光客増加に期待している。
産業廃棄物処理	燃料費・設備費等の高騰や、請負先の減産による排出量の大幅減少など厳しい状況が続いており、前年同月と比べ売上は▲7%、収益状況は▲2.2%となった。排出業者への値上げ要請に加えて、環境対策も課題である。
一般廃棄物処理	市町村の一般廃棄物処理業務委託契約について、新規参入を狙う事業者が随意契約の案件を競争入札に切り替えるよう働きかけているが、判例に基づき訴えは退けられている。 当該業務はライフラインの保身に係る重要な行政事業であり、利益拡大を図るのみでなく社会貢献への意識やソーシャルワーカーとしての自覚が重要であることを理解していただきたい。
警備業	天候不順によって遅延した現場が多く、組合員間で売上に差が生じた。新規警備員を若干名採用したが、退職予定（高齢者など）人数を補うことはできない。
自動車整備業	車検台数について、普通車15,147台（前年同月比▲123台）、軽自動車12,177台（前年同月比▲708台）※集計の都合上、10月末の数値
建設業 (総合)	11月の県内公共工事は、前年同月に比べ件数は▲14%、請負金額は▲16%それぞれ減少した。11月末累計での件数は▲0.3%となったが、請負金額は2.5%増加した。
建設業 (型枠)	仕事量は確保できておりゼネコンからの見積もり依頼もあるが職人不足で断るケースが多く、価格転嫁も進んでいない。 若い世代は「給料の高さ＋休日の多さ」を求め、経営状況が改善しない限り賃上げ・休日確保ともに困難である。
建設業 (鉄構)	全国組織では鉄骨製作図面の決定遅延、設計変更が多い状況を是正・解消するよう陳情を行っており、当協会も県土整備部・県建設業協会・県建築士協会・JSCA山梨の4団体に陳情を行った。 年明けまでは物件が確保できているが仕事量は少なく、年度末にかけては減少傾向である。鋼材単価も下落傾向であり、鋼材会社の売上も減少している様子である。
設備工事 (電気工事)	資材価格の高騰や時間外労働の上限規制、最低賃金の上昇など経営環境の厳しさは増すばかりであり、業界全体で時代に合った新たな経営方法を模索していく必要がある。
設備工事 (管設備)	当組合では「技術者の育成」を今年度の重点施策の一つとしており、国家資格などの取得をサポートするため研修会を実施した。秋から冬にかけての試験が多く実を結ぶことを期待している。
運輸 (タクシー)	例年よりも9月・10月は連休が多かったため短期的には稼働が減ったが、年間を通してみるとビジネス客など増加傾向である。
運輸 (バス)	前年度月と比べ売上・収益状況ともに10%増加した。観光業界全体がコロナ前の状況に戻りつつあると感じる。
運輸 (トラック)	荷動きが鈍く、前年同月と比べ売上は▲10%となった。年末に向けて荷動きが活発になることを期待している。 また燃料費の上昇により収益の確保が困難な状況が続いていることに加えて、2024年問題への対応のため組合員各社で運行の見直しや荷主への運賃交渉を行っているが、効果が薄い。

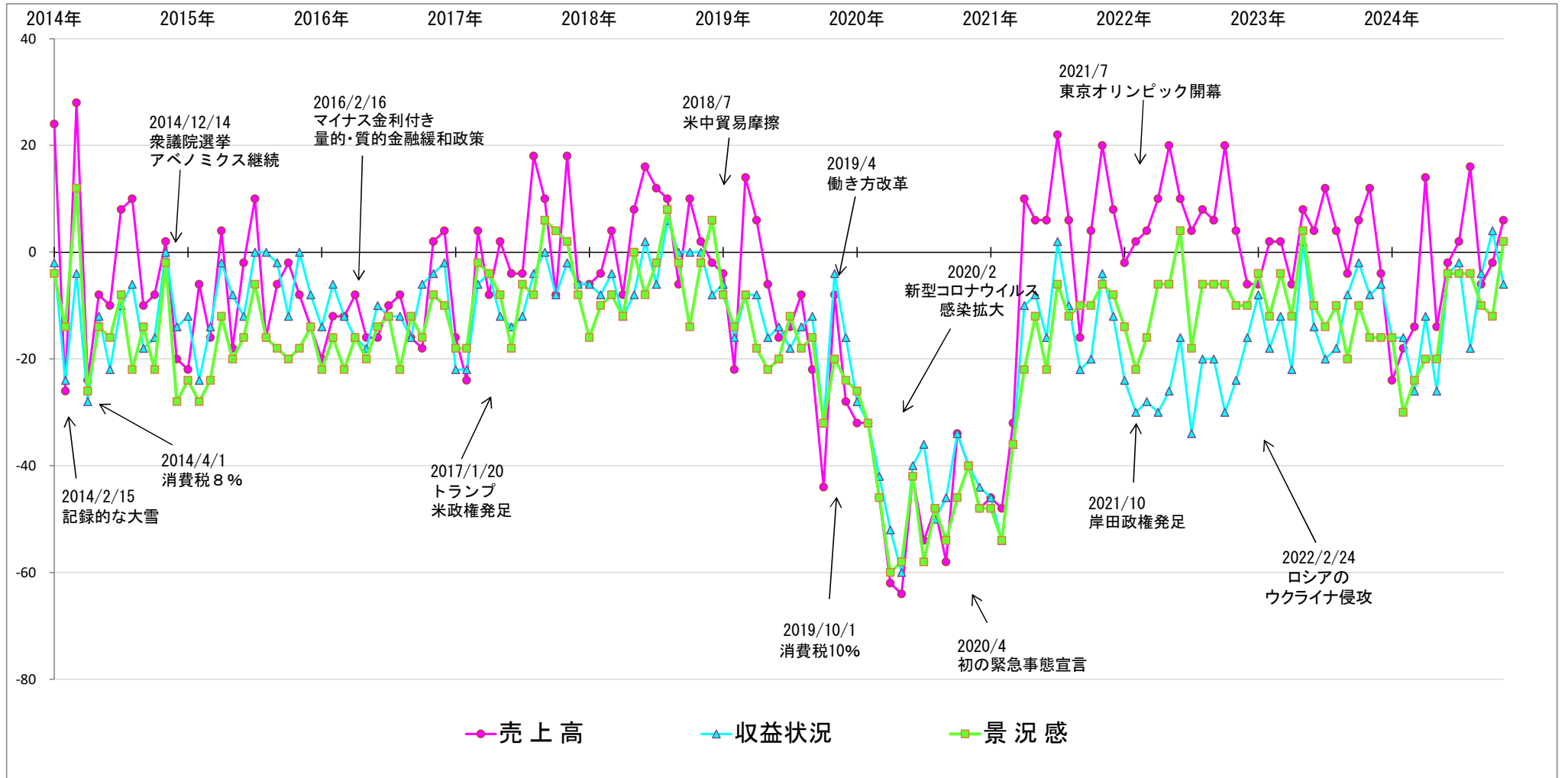
■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2023年11月	2024年10月	2024年11月	2023年11月	2024年10月	2024年11月	2023年11月	2024年10月	2024年11月
売上高	▲ 5	▲ 5	10	23	0	3	12	▲ 2	6
収益状況	▲ 10	0	5	▲ 7	7	▲ 13	▲ 8	4	▲ 6
景況感	▲ 25	▲ 30	▲ 10	▲ 10	0	3	▲ 16	▲ 12	▲ 2

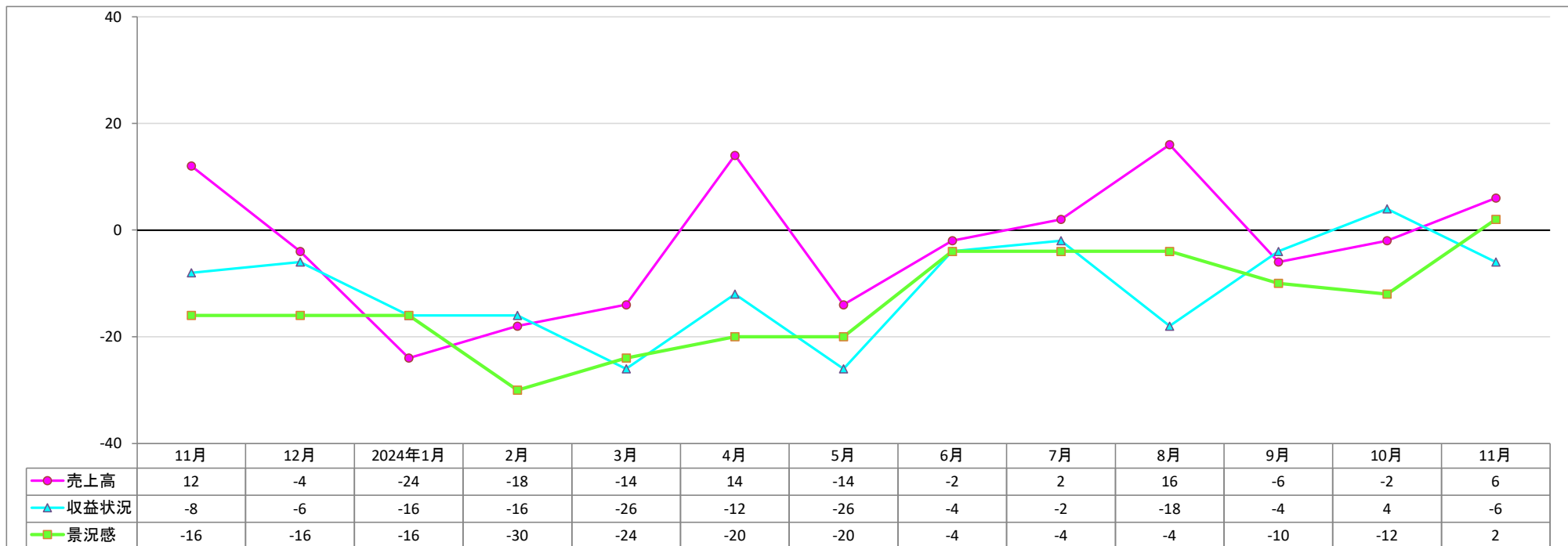
※((良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値



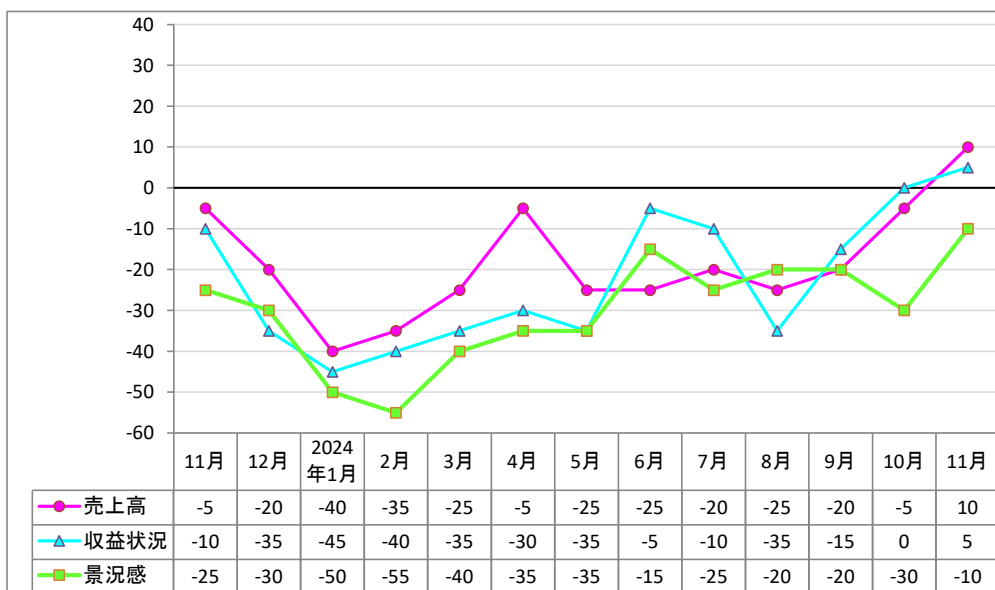
D.I値の推移①(過去10年間) 2014年1月～2024年11月



D.I値の推移②(過去1年間) 2023年11月～2024年11月



【製造業】



【非製造業】

